

## 研究会報告

# 数量化の方法と応用に関する研究会

昭和60年度 統計数理研究所 共同研究 (60-共研-12)

開催日: 1985年11月5日~6日

研究代表者: 駒澤 勉 (統計数理研究所)

質的データの多次元データ解析として数量化理論は、林知己夫 (前統計数理研究所長) が開発胎動し始めて30数年になり、現象解析の道具として各学問分野をはじめ、一般社会での利用成果は計り知れない。今後、高度情報化社会が更に進展するにともない、各分野において大量のデータ資源を有効に活用し、目的の現象を解明することがますます重要になってくる。そこで、当研究会は、J.W. Tukey や林知己夫等が提唱している、外的基準のない多次元解析によって、データの多次元構造を探索的に分析することを目的にした数量化の理論・応用利用法の各分野の研究者を参集し、研究発表・質疑・討論を行なった。

## プログラム

第1日 座長 水野 欽司 (統数研)

1. 馬場 康維 (統数研), 西 三郎 (都立大・人文) 数量化 III 類による健康調査の解析
2. 駒澤 勉 (統数研) 数量化 III 類による実証的データ解析  
— 集団検診データ, 薬効データを例に —
3. 斎藤 堯幸 (北大・文) 数量化 III 類の性質
4. 鈴木 達三, 中村 隆 (統数研) 数量化 III 類を用いた継続調査データの分析

第2日 座長 駒澤 勉 (統数研)

5. 渡辺美智子 (九大・理) 潜在クラス分析に於ける最尤推定量の性質  
— シミュレーションによる偏りの評価 —
6. 佐藤 義治 (北大・工) 非対称親近性データの表現について
7. 垂水 共之, 田中 豊 (岡山大・教養) 数量化法の感度分析について
8. 大隅 昇 (統数研) フランスにおけるデータ解析と情報学  
— 国際シンポジウムにみるその動向 —
9. 林 知己夫 (統数研) 数量化と実証的研究